

男性が避妊してくれない。 妊娠がこわいが、 本人には強く言えない。

09

悩みと相談

つきあっている男性が避妊をしてくれません。彼は「妊娠したらそのとき考えよう」と言うのですが、同じ大学生ですし、妊娠のことを考えるととても不安です。でも、嫌われるのがこわくて本人には強く言えません。どうしたらよいでしょうか。
(女子学生2年)

対応策

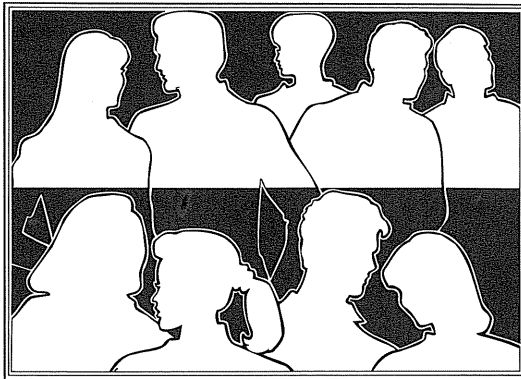
世界的なネットワークをもつアメリカの音楽専門テレビ「MTV」は、エイズ撲滅キャンペーンの一環として世界の14～34歳の若者を対象に性行動に関する調査を行っています。2004年の調査によりますと、日本の若者の性意識や行動には以下のような特徴が見られました。

- ①性体験はグローバルスタンダードに近い。
- ②コンドームの有効性は認識しているが、実際のコンドーム使用率は低い。
- ③コンドームは避妊のために、HIVをはじめ性感染症予防のためという意識は低い。
- ④HIV検査にはほとんど行ったことがない。
- ⑤複数のパートナーとの無防備な性交渉が性感染症拡大の温床になっている。

心身ともに大人になった大学時代の恋愛は、セックスと切り離して考えることは困難です。セックスは男女間の大切なコミュニケーションのための営みですが、多くの責任や危険が潜んでいることをもっと認識させなければなりません。妊娠につ

いては「なった時に考える」という学生が多く、性感染症についてはまったく現実感に乏しいようです。

子どもができれば激変するであろうお互いの人生や社会的責任、墮胎した場合の女性の肉体的・精神的負担、性感染症の危険性など、パートナーの心とからだのことをきちんと知るために、学生にはもっと性の問題についてフランクに話し合うことを勧めましょう。



POINT — ● ここがポイント

性の問題の背後には、言葉によるコミュニケーションの少なさが見え隠れする。お互いのことをもっと知るためには、率直に話をするのが何よりも大切。

◆ 避妊・H I V・献血やドナー登録の基礎知識

column

- ①避妊：コンドーム、女性用コンドーム、基礎体温法、ピルなど様々な方法があります。確実性が高く、一番手軽で費用もかかりませんのでコンドームが一般的です。
- ②H I V：性感染症はコンドームを使用することでほとんどは防止できます。H I Vの抗体検査は保健所で受けつけており、匿名・無料です。
- ③献血：移動採血車による街頭での献血、各地の血液センター、血液ルームなどで受けつけています。種類としては、200mlまたは400mlの全血献血、血小板献血、血漿献血があります。なお、年間回数に限界があり1年に24回以内です。
- ④ドナー登録：臓器ドナーについては、日本臓器移植ネットワークが発行する「臓器提供意思表示カード」に提供する意思のある臓器をチェックして携帯します。骨髄ドナーは保健所や献血ルームなどで受けつけています。